

「図書館ビジョン」の策定と大学連携による地域資料の保存・活用事業を開始 ～開館10年という節目の年をターニングポイントに～



篠山市立中央図書館（兵庫県篠山市） <http://edu.city.sasayama.hyogo.jp/c-library/>

基本データ（数値はH25年現在）

住所	篠山市西吹 88-1
電話番号	079-590-1301
人口（図書館が所在する市町村）	43,894人
職員数（うち有資格者数）	15人（11人）
蔵書数	146,963冊
登録者数	26,363人
年間貸出冊数（H24）	304,037冊

目的・趣旨

開館10年という節目の年を機に、過去の取り組みを検証しつつ、未来につながるような新しい図書館づくりに向けた取り組みをスタートさせるため、職員の羅針盤である「図書館ビジョン」を策定した。

取組概要

「図書館ビジョン」の基本理念は、「人と本・知識・情報を結びつける知的空間の創造」である。その中で、「篠山市のめざす図書館像」の一つとして掲げているのが、「篠山の古今を守り未来につなぐ図書館」。いわゆる、地域資料を適切に保存し、有効活用していこうというものである。

当館には貴重な資料が多数ありながら、あまり有効に活用されていない。そこで、神戸大学の指導を仰ぎながら、また、市民ボランティア（地域資料整理サポーター）の協力を得ながら、眠っていた資料に息を吹き込み、生きた資料にする取り組みをスタートさせた。



▲篠山市立図書館ビジョン

特徴

「図書館ビジョン」の特徴は、平成23年度に外部から図書館アドバイザーを当館に迎え、実際に現場に立つ司書や利用者の声を反映させた形で、職員が手づくりで作成したということである。向こう10年を見据えたものであるが、実現可能な身の丈サイズの指針に仕上げることができ、図書館職員の羅針盤として、また、市民（利用者）へのメッセージとして活用できる内容としている。

その中でも、新しくスタートさせる取り組みの一つとして力を入れているのが、次の図書館・大学・地域が協働で行う「地域資料の保存・活用事業」である。

●地域資料の保存・活用事業

眠っている地域資料に息を吹き込もうと、講座を受講したサポーター14人が集まり、古文書の目録づくりを開始。今後は、古文書の読み解きと電子化に着手する予定である。

●司書の育成と学校との連携

「図書館は人が成長させる」という強い思いの中で、講演会や講座などに積極的に参加し、司書のスキルアップに努めている。また、当館に学校図書館支援担当（司書）を設置し、学校との連携も深めている。



▲平成25年6月、サポーター結成



▲ブックトークを行う支援担当司書

取組の成果と今後について

平成24年10月に策定した「図書館ビジョン」。当館は、この指針に基づき図書館サービスの拡充を行っていく。特に、「地域資料の保存・活用事業」では、地域を巻き込んだ活動母体ができただけでなく、大きな成果であり、今後は、時間はかかるが保存から活用に向けた取り組みを進めていく。また、学校との連携では、司書が直接学校に出向く機会を増やし、顔をつきあわせた中で子供の読書活動推進に力を注いでいく。